



八卦台

No.6

平成29年10月1日
男鹿市立潟西中学校

笑顔が満ちあふれた潟中祭

学年を越えた関わりと団結力で大成功！！

校長 森山 直人

9月2日(土)、本校最大の行事である「潟中祭」が行われました。穏やかな秋晴れに恵まれ、たくさんの保護者の皆様、卒業生、地域の皆様がご来校くださいました。用意していた会場の座席は満席で、新たに追加したほどのご参加をいただいたことに、心から感謝申し上げます。

生徒たちは夏休み明けから約十日間の短い準備期間を経て、日頃の学習の成果を發揮しました。テーマ「**笑顔満祭(えがおまんさい)～君色に輝け～**」を実現するために、お客様に楽しんでいただくには、まず自分たちが笑顔でパフォーマンスしよう、そして一人一人のもてる力を存分に發揮して、自分らしく、潟中生らしく精一杯輝こうという思いが、生徒の姿となって表れた一日となりました。

初めての潟中祭に少し緊張しながらも、先輩からたくさんのお話を学びやり遂げた1年生、合唱の朝練習を積み重ねるごとに歌声がどんどんまとまり、大きな成長を見せてくれた2年生、難易度の高い合唱曲を高い完成度でつくりあげ、あらゆる場面で手本を示してくれた3年生、それぞれの姿は、今でも目に焼き付いています。

本番直前まで練習を重ねた英語暗唱では、ALTの先生との練習の成果が実りました。3年生部員にとって最後の演奏となる吹奏楽部のステージは感動を呼びました。有志が特技を披露するパリピステージでは、みんなを楽しませるために全身で表現する自信に満ちた潟中生の姿に、たくましさも感じられました。フィナーレの全校合唱「COSMOS」は、間違いなくこれまでで最高のハーモニーとなって会場に響き渡りました。潟中生のエネルギーが一つになった瞬間でした。

今後も、一層潟中生の輝きが増し、その姿を地域の皆様に届けられるよう、潟中一丸となって取り組んでまいります。これからも、潟西中学校をよろしくお願いたします。

生徒の振り返りから

- 部門別でも合唱でも協力することが一番大事だということが分かりました。部門別は声を掛けて手分けしてやるし合唱はハーモニーが大事で、潟中祭は人との関わりを深めることが目的だと思いました。(1年男子)
- 不安もありましたがパリピステージに出ました。先輩たちの応援により舞台は大盛り上がりでした。私は喜びと達成感で一杯でした。主役と同じくらい盛り上げ役の人は大切なのだと気が付きました。(1年女子)
- 3年生の演奏は少ない人数だけど、美しい音色で、すごく上手でした。今まで3年生に頼ってきた分、次は私たちが頑張らないといけないと思いました。練習を頑張って、3年生がびっくりするぐらい成長したいと思います。(2年女子)
- いろいろな場面で3年生がリーダーシップを發揮していました。来年は3年生になるので、自分達が後輩たちをしっかりと引っ張っていきたいです。(2年男子)
- 最後の潟中祭はとても楽しいものとなりました。それも生徒会を中心に力を合わせて取り組んだからだと思います。次は受験なので、気持ちを切り替えてテスト勉強に取り組みたいです。(3年女子)
- 今年の潟中祭は今までで一番よいものとなりました。準備のときから生徒会の人たちや学年発表、有志発表の人たちとたくさん関わり、とても楽しかったからです。全員で協力して一つ一つのことを自分たちの力でつくり、潟中祭当日まで完成させることができ本当よかったと思いました。(3年男子)



▲執行部+αによる開祭宣言

▲表現力豊かに発表した英語暗唱



▲総合的な学習の時間の成果を披露した学年発表(左から1年、2年、3年)



▲3年生部員にとって最後の演奏になった、感動的な吹奏楽部のステージ



▲会場一杯に歌声を響かせた全校合唱「COSMOS」



▲最優秀賞に輝いた3年生
指揮者の村井恵輝さん



▲熱気あふれたパリピステージ



▲おもてなしの心で

栄光の足跡 スポーツの秋、文化の秋

- ☆東北女子相撲選手権大会☆9月2日 美郷町南運動公園相撲場
中学生の部【準優勝】石川玲愛
- ☆市中学校英語暗唱・弁論大会☆9月6日 男鹿市民文化会館
暗唱の部【第3位】平戸 碧 【第3位】児玉実優
スキットの部【第3位】石川 鳳、伊藤正宗、加藤小羽
- ☆少年の主張県央地区予選大会☆9月7日 男鹿東中
【優秀賞】佐藤瑞季 【優良賞】薄田菜那子
- ☆少年の主張秋田県大会☆9月14日 外旭川中
【優良賞】佐藤瑞季
- ☆防火・救急救命弁論大会☆9月14日 天王中
【優秀賞】尾崎春菜
- ☆秋田県中学校秋季相撲大会☆9月9日 大潟村民相撲場
1年生個人戦【第4位】石川 鳳
- ☆男鹿潟上南秋中学校秋季体育大会
 - 陸上競技大会☆9月9日 元木山運動公園
男子1年100M【第1位】13秒6 薄田和馬
男子共通走り幅跳【第3位】4m87 薄田和馬
 - 野球大会☆9月16日 長沼球場
潟西中・男鹿南中・井川中合同チーム 0-1x 羽城中(延長8回タイブレーク)
 - バスケットボール大会☆9月16、17日 広域五城目体育館
潟西中 38-78 羽城中 潟西中 56-82 男鹿東中
潟西中 40-102 井川中



防火・救急救命弁論大会で優秀賞に輝いた尾崎さん

10月の行事予定

1	日	部活動休止日
2	月	学校安全点検日 衣替え完全実施
3	火	P T A挨拶運動(野石地区)
4	水	基礎テスト⑥
5	木	歯の健康教室(2、3年)
6	金	前期終業・後期始業式 生徒会役員選挙
8	日	市民スポーツ3on3バスケットボール大会
9	月	体育の日
10	火	後期時間割開始
11	水	学級委員・専門委員決定
15	日	部活動休止日 全日本中学生女子相撲大会
16	月	小中合同挨拶運動(～17日)
21	土	男鹿市民ロードレース大会
23	月	基礎テスト⑦
24	火	市中学校少年防犯弁論大会
28	土	市小・中学校音楽祭(男鹿市民文化会館)
29	日	ひまわり苑祭(吹奏楽部演奏)
31	火	福米沢・土花地区との合同防災訓練

8月・9月の潟中Topics

◆8月27日 P T A奉仕作業 夏休みが明けて、最初の日曜日。早朝にもかかわらず、35名の保護者の皆様に参加してくださいました。朝7時から各学年に分かれての作業でしたが、約1時間で学校中の窓と窓枠がピカピカに蘇りました。差し込む光もこれまでと全く違う輝きを放っていました。生徒の参加も多く、親子で奉仕作業をする温かい場面がたくさん見られました。

◆9月15日 緑の募金還元事業 市から「緑の募金還元事業交付金」をいただき、学校の南側にある広場に生徒会執行部のみなさんが代表して植栽を行いました。植えた4種類の木と花言葉は、「モッコク：人情家」、「キンモクセイ：気高い人」、「クロガネモチ：魅力・出世」、「フォーエバーゴールド：固い友情」です。しっかりと大地に根付くよう、協力して丁寧に植えました。



成長に願いを込めて

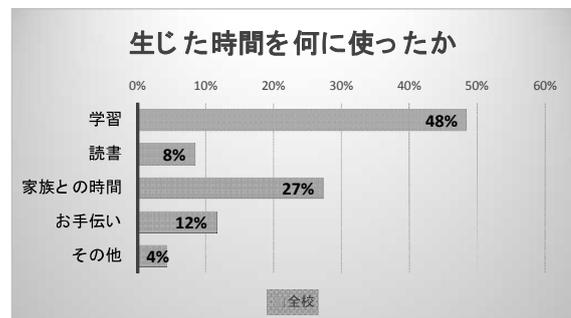
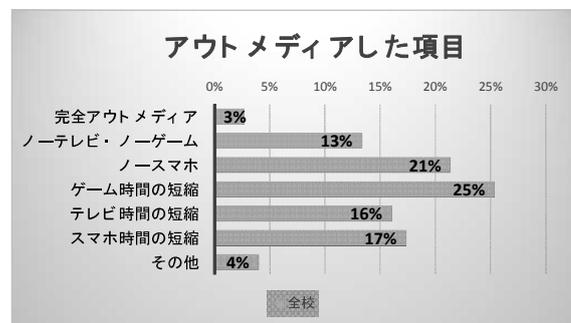
福米沢地区・土花地区との合同防災訓練を行います

10月31日(火) 潟西中学校と福米沢・土花地区との合同防災訓練を行います。本校は、男鹿市から地域の避難所として指定されています。その機能を果たすべく、本校で進めているコミュニティ・スクールの一環として今年度新たに取り組むこととしました。当日は、避難訓練だけではなく、非常食の試食、救急救命講習もを行います。福米沢地区・土花地区の皆さん、どうぞお誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。



「アウトメディア」に挑戦！！

本校生徒の「メディアの使用時間が長い」という課題の改善に向けて、生活安全委員会の取組として、「アウトメディア日」を実施しました。「アウトメディア」とは、テレビやゲーム、インターネットなどの電子メディアにふれないで過ごすことを言います。電子メディアを安全に排除するものではありません。夏休み中にもかかわらず、潟中生全員が自分自身で立てた計画に基づき、それぞれのアウトメディアに取り組みました。



【生徒の感想】

- テレビは、一番身近なメディアなのでどうなるかと思ったが、なくても普通に生活できるし、目がだるくならなくて、いつもよりシャキッとして過ごせた。
- 学習に使う時間が増えて、寝る時間も増えたので、次の日はとても体が楽になり、気分もよくなったので、とてもいいなと思いました。
- スマホの時間を家族との会話に使うことで、あまりしていなかった学校での話などをたくさんすることができ、とても楽しい時間を過ごすことができた。
- 勉強中に音楽をかけているのをやめただけで、学習時間が伸びたのに驚き、これからも、月に何度か取り入れていきたいと思います。
- 自分がどれだけスマホに頼っているかが分かった。

【保護者の感想】

- 学習時間や家族との団らの時間を大切に過ごすことができました。これから定期的に我が家のアウトメディア日を続けていきたいと思います。
- 自分でルールを決めてやめたことで、どれだけ時間を有効に使えるのか知ることができてよかったと思います。
- テレビが消えていると他のことができるようになり、親もいちいち怒らなくていいので、お互い良い結果となった。今後も引き続き行いたい。
- 自分の部屋から出ている時間がいつもより長かったように思います。これを機会にスマホの時間を減らしてくれるといいですね。
- メディアを使用しないと相手を見て話せるので、とても大事だし、会話が増え、非常に良いと思います。

アウトメディアに取り組むことで生じた時間を、学習時間に充てた生徒が約半数に上りました。また、家族との時間に充てることで、学校での話をするなど親子の会話が増えていることも分かりました。「このあとも取り入れたい」という記述が特に多く見られ、この取組の有効性も確認できました。

「将来、人間が機械に使われるようになる」という内容の映画がありましたが、近年のAI技術の進展を考えた時、現実になりかねない気もします。だからこそ、人間の幸せのために電子メディアを道具として正しく使いこなすという自覚が必要ですね。